

## 先進地紹介

## 地域資源を活かした住民主導型の地域振興

～群馬県みなかみ町～

大子町建設課 主事 北村 英之

平成25年10月24日・25日の2日間にわたり、茨城県都市計画協会主催の先進地視察に参加しました。その中から平成24年にオーライニッポン大賞グランプリ(内閣総理大臣賞)を受賞した群馬県みなかみ町の(一財)新治農村公園公社が運営する「たくみの里」についてご紹介します。

## ■群馬県みなかみ町の概要

みなかみ町は平成の大合併により、水上町・月夜野町・新治村の2町1村が合併し誕生しました。群馬県北部に位置し、上越新幹線によって東京と約1時間で結ばれています。茨城県からも北関東自動車道の全線開通により身近なものになりました。



面積	780.91km <sup>2</sup>
総人口	21,097人
男性人口	10,177人
女性人口	10,920人
総世帯数	8,181世帯
※みなかみ町HPより	

## ■「たくみの里」の概要

たくみの里はみなかみ町の旧新治村地区の須川平と呼ばれる地域にある農村集落で、江戸時代は旧三国街道の宿場「須川宿」でした。首都圏から160kmという近い距離にあることから、昭和50年頃までは農業と観光の村(旧新治村)として約100万人の観光入込客がありましたがその後、大規模開発や高速道路の開通等により、主産業である農業や養蚕が衰退の一途をたどる中、美しい農村景観を保全するには、しっかりとした農業経営が不可欠であるということから、「たくみの里」づくり事業が開始されました。



## ■「たくみの里」のあゆみ

昭和59年	自治省(現総務省)地域活性化事業が提案され「たくみの里」事業が始まる
60年	各施設建設
62年	たくみの里オープン
平成2年	農村公園構想策定 景観条例策定(美しい新治の風景を守り育てる条例) 手作り郷土賞 国土交通省(須川宿堰)
3年	活力のあるまちづくり賞「たくみの里づくり」総務省
5年	平成5年3月(財)新治村農村公園公社の設立
6年	景観形成地区の指定(永井・須川) 景観協定地区の指定(笠原・谷地・東峰須川)
8年	須川宿が歴史国道指定となる
9年	三国街道たくみの里・毎日地方自治大賞(最優秀賞)
14年	優秀観光地づくり賞(金賞)総務大臣賞
17年	たくみの里「道の駅」認定
24年	オーライニッポン大賞グランプリ(内閣総理大臣賞)

「たくみの里」事業は、歴史文化の保全と伝承、伝統手工芸文化の伝承と体験、食文化の伝承と開発、高齢者の生きがい事業を基本理念に、事業化を行いました。



農村集落に残る歴史文化財やわら細工や竹細工、伝統工芸等の技を持つ人々を活用した体験施設を各集落に配置し、現在は様々な技を持った匠が定住し、24

の異業種工房が交流の拠点となって、体験型農村観光を実現しています。

また、群馬県内町村初の景観条例を制定し、「建物事前協議色彩看板の規制」など農村景観保全に取り組んでいます。



## ■おわりに

景観の美しさもさることながら、旧新治村の時代から「全村公園化構想」として農業と観光を結んだ体験型農村観光に取り組み、オーライニッポン大賞グランプリを受賞するまでの約28年間もの長期スパンにおいて、まちづくり・地域づくりを行ってきた活動が、年間交流人口40万人を呼び寄せる結果だと思えます。改めて、地域住民の活動がまちづくりに必要不可欠だと実感しました。

